

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102507		
法人名	ヴォルフアート(株式会社)		
事業所名	グループホーム四季彩		
所在地	福島県福島市永井川「字光白50		
自己評価作成日	平成27年5月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の力を見出しきめ細かなケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりの年間目標を作り、達成度をケアプランに反映させ、その人らしい暮らしができるよう支援している。
日々のケアの中で、何が拘束にあたるかを職員同士で話し合い、確認することで、利用者の尊厳や意思を大切にしたいケアサービスを積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの一番眼に入る場所に理念を提示・常に意識確認を行っている	その人らしく暮らせる理念を、利用者一人ひとりの状態に添った希望や願いを一年の目標として、取り組んでいる。毎月のミーティングでは目標を確認し、達成度によって次のケアプランに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの慰問 地域の方を行事に招いている	町内会の夏祭りに参加したり、事業所主催の芋煮会やクリスマス会に住民が来所して楽しんでいる。地域の方が、事業所周辺の草刈ボランティアをしてもらい、野菜の差し入れがあり、事業所と地域は日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所報告を行い意見・要望・助言をいただいている	暑くなる時期の水分摂取の配慮など様々な意見が出されている。町内会長からの提案で、状況に応じた避難場所を複数設定している。水害に遭った時、町内会が手配したバスで避難場所に移動した実績がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	状況に応じて電話または窓口に訪問相談を行っている	市の介護担当者とは利用者の状況に関して定期的に連絡する他、高齢課員の訪問時の情報交換など、市行政との関係づくりを行っている。入居者募集など地域包括センターの職員との連携を密にして、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず 勉強会を通し全職員が身体拘束の内容を学び 行わないケアに取り組んでいる	職員は拘束をしないケアについて定期的に学習している。日常的に利用者の意思を大切に、ベットの転落防止用すりの対応や車イスでの移動時などで、身体拘束に当たるか、当たらないかを話し合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6番同様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用していない すぐに利用できる体制は整っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に行っている 改定等は文書にて通知・署名・捺印を頂き 十分説明納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様面会時に意見・要望をお伺いしている 年1回の家族会を行っている	日常の声かけや表情から利用者の意見を聞き取る工夫をしている。家族会と合同のクリスマス会を催すなど多くの意見がくみ取れるよう取り組んでいる。最近ではあづま運動公園での花見があり、利用者が楽しく過ごしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換を行い・運営に反映させている	職員はミーティングで管理者に意見や提案を行い、管理者が事業所代表に伝えている。利用者の年間目標の設定の提案があり、達成度の確認からケアプランの見直しにも採用され、利用者の生きがいに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件を整え 就業時間を守るよう努力している 資格の取得を促し 給与に反映向上心を持って働くよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き勉強会を行っている スーパービジョンを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話・訪問を通して情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人・家族様と実態調査を通して、要望・思いを伺い ケアプランに反映・全スタッフに周知・関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族様の話をお伺い、定期的に連絡を取り関係づくりを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定した段階で利用できるサービスを説明・同意を得て行っている(ヘアカット・オムツ購入など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で一人で出来ないことをサポート 一緒に行動し関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を行い その都度家族様と話し合いケア方針を立てている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・親戚の面会・家族様との外出など大切にしている	友人、親戚などの来訪時には、職員が居室に案内して、くつろいだ雰囲気でお話できるように配慮している。お墓参りなどは、家族に対応してもらっている。近所への買い物は、店の人と顔なじみになるなど新たな馴染みの場もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見極め 一緒に過ごせるよう配慮 間に入り働きかけている 両ユニット交流の為に合同行事も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや家族様の相談にも応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で発せられる言葉や態度から 思いを組みとり 本人の立場に立ち検討している	入居前の生活歴や意見、要望を基本にし、日々のケアの中で利用者の行動や身振り、表情の変化から思いをくみ取っている。判断に難しい場合は、家族に相談しながら、利用者本位のケアを目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	雑談の中で生活歴などを話して頂き、暮らし方・生活環境の把握に努めている 家族様からの聞き取りも行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス・ケア記録などスタッフが情報共有し 本人らしく過ごせるよう状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様の意向を反映し スタッフカンファレンスを行い よりよく暮らすためにを目標に作成している	日々の観察や経過から計画作成担当者が利用者本人と家族から要望を聞き、職員の意見を聞いて、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子 本人の言葉 表情などを細かく記録 申し送りによりスタッフ間での情報共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れ 保育園児との交流 町内会行事の参加支援も行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じている 基本的には家族様対応だが状況に応じては事業所対応もしている	かかりつけ医の受診は家族対応を基本として、家族が難しい場合は事業所が支援している。医師の参考にと利用者の体調、気づいた点をまとめた健康通信を手渡している。事業所の契約医は毎週、往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化に気づいた時点看護師に報告指示を受け支援できる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを用いて情報提供を行っている 病院相談員との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族様の意向を踏まえ 事業所で出来る事を説明 同意のもと医療機関と連携を図っている	入居時に本人と家族の意向を聞き取り、事業所の支援体制を説明している。利用者の状態変化した場合は、家族に報告確認し、方針を決めている。身体機能の低下に伴った介護体制の見直しは、職員の話し合いを行い、意識の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様サマリーを利用し緊急時に情報提供できるよう整えている AED・吸引器の設置 講習会も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を利用者様参加で行っている 推進会議を通して協力要請を行っている	消防機材販売事業者の立ち会いを得て、利用者参加の避難訓練を年2回実施している。夜間を想定した通報訓練を行っている。地域に避難訓練への参加を呼び掛けているが実現していない。	水害発生時に避難した経験があるが、周辺住民の支援は必要不可欠であり、地域と連携した訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握 尊厳を持った言葉かけを行っている	利用者の尊厳を損ねないように、さん付けで言葉かけしている。プライバシーを確保するためにトイレ誘導では他に人に気づかれないような声掛けをしたり、ドアを閉めてのトイレや入浴、着替えを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先回りせず自己決定が出来るよう選択肢を工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格・状態を把握しその人に合った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日1回は鏡に向かって頂き整容に気を配り支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理下準備後片付けを一緒に行い その時間を活用しコミュニケーションを行っている	メニューはカロリー計算して1週間分を作るが、個人差に配慮した調理法を取っている。下準備や後片付けなどを手伝ってもらうなど、利用者の意欲づくりに努めている。カップ麺や外食など、利用者の要望を取り入れて、楽しい食事になるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分排泄表の活用 食事形態の工夫・配慮を行っている(粥・キザミ・ミキサー・トロミなど)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用 トイレ誘導を行っている	トイレでの排泄を基本に、綿パンツの使用を目標に支援している。水分の摂取量など利用者一人ひとりの日々の状態を把握し、細かなトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事に注意し毎朝のヨーグルトの提供を行い便秘予防に取り組んでいる 軽体操内での腹部マッサージ下剤の服用も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その都度声掛けを行いご本人が納得したうえでやっている	利用者の希望に従って入浴サービスをしている。ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう、湯の温度をぬるめにして。着替えを選ぶ時間を設けながら、楽しい入浴になるよう工夫している。入浴出来ない利用者には清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えている 静かな環境と明るさを工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ファイルの使用 一包化を取り入れ色別により誤薬がないよう工夫 薬剤師との連携		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントをもとにレクリエーションに取り入れれたり散歩・買い物・ドライブなど また季節ごとの行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望にそった支援を考えているが 個人のレベル低下のため難しい	散歩や食事などの買い物に、職員と一緒に出掛け、外出支援をしている。お墓参りや焼き鳥が食べたいなどの要望には、家族に連絡して、行ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物同行を行っている 極めて少ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあればその都度支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心掛け 廊下や壁に写真や作品を飾り 季節感を取り入れている	居間などの共有空間には手作りの七夕飾りを飾りつけ、季節を感じたり、各種行事を楽しめるようにしている。居室前の廊下には、誕生会や近くの園児との写真を飾り、一目で居室が分かる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席については中の良い方・相性の良い方が一緒に過ごせるよう工夫している ソファ・TVを置き自由な空間になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	全個室になっている 利用者様の馴染みのものを持参し居室を飾り 安心できる場所を家族様と共に行っている	居室にベッドや布団など、入居前の生活スタイルを維持するため慣れ親しんだ家具を持ち込み、使用している。誕生日のお祝いの色紙や家族の写真を飾り、居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全バリアフリー・手摺りがあり安全に歩行出来 トイレ・居室・浴室には分かり易く表記している		